

設 立 趣 意 書

わが国は世界一の脳卒中多発国であり、国民死亡原因の第一位も脳卒中であります。特に宮城県を吹く東北地方はわが国における最多発地域である故に世界一の脳卒中多発地帯となる訳です。

ちなみに昭和52年における宮城県民の脳卒中による死亡者数は3,557人(29.2%)と第一位を占め、これを無視することはできません。

従来、脳卒中は老人の疾患とではと考えられましたが、最近では必ずしも老人のみならず、若年、中年の脳卒中患者もかなりの数にのぼっております。また最近まで本疾患は「中風にかかった」「あたった」等として、半ば諦めの病気とも考えられ、予防対策もなくまた、必ずしも医学的に十分適切な医療が行われてきたとはいえません。

医学の進歩は本疾患の予防対策に明るさを与え、一方従来の本疾患の治療への考え方を変えて、特に発症直後の治療法の適正な選択処置が最も重要となってきたのであります。

厚生労働省は、この新しい治療研究を主体とする脳卒中センターと脳卒中専門のリハビリテーションのセンターを指定し、すでに大きな成果が上がっています。これらのことは、宮城県民を中心とした脳卒中の撲滅のため、予防、治療及びリハビリテーションを通じての一貫した医療体系の確立が緒についたといえます。

ここで私達は本協会を設立し、県民病である脳卒中に対し、先づ第一に、その予防対策を推進し、同時に治療、研究、また患者の社会復帰訓練を促進し、県民の保健福祉向上に寄与することを目的として脳卒中の撲滅のため、医療機関、研究機関及び行政機関の連携プレーをとりながら、次の各号の事業を推進する。

1. 県民に対する脳卒中の予防、治療、リハビリテーションに関する知識の普及啓発
2. 脳卒中救命救急策、患者の登録及び社会復帰に対してのシステムの整備とその円滑な運営、それに必要な医師、看護師、その他の医療従事者の研修、訓練
3. 脳卒中疫学的調査
4. 脳卒中に関する学術研修とその発表、出版物の刊行及び脳卒中に関する学術交流